



エナメル質の色調に対応した カスタムシェードガイド

荒木美恵子^{1,2}

馬場 聡²

1 福岡県歯科技工士会所属

2 はち歯科医院



1. はじめに

近年、単一材料での補綴装置製作を経験することが多くなったように感じる。しかし、審美領域における治療の際には、ステイン陶材のみでは再現することが困難であり、天然歯のエナメル質のように透過した色調を好む患者も少なくはない。その際には、トランスルーセント用の陶材（以下、トランス陶材）を薄く一層築盛し、エナメル質を疑似的に再現する方法を選択する。しかし、シェードテイキング時に使用する既製品のシェードガイドでは、筆者が使用している陶材と互換性がなく、記録写真から陶材の色調を再現することは熟練した経験が必要であった。そこで、ベースのプレスセラミックス上に陶材築盛時に使用するトランス陶材を築盛したカスタムシェードガイドを製作することは臨床的に有用性が高いと考えたので報告する。

fig.1



fig.1 カスタムシェードガイド

2. 材料と方法

シェードガイドの原型として櫛状にワックスアップを行い、埋没後にプレスセラミックス（IPS e.max Press, Ivoclar Vivadent）の圧入を行う。調整後、明度の異なるトランス陶材（IPS e.max Ceram, Ivoclar Vivadent）を各部位に築盛し焼成後に研磨し完成とした（fig.1）。

3. 結果と考察

本カスタムシェードガイドを使用することにより、シェードテイキングの際に、患者のエナメル質の色調を確認しながら築盛する陶材の決定を行うことが

できるようになった（fig.2, 3）。切縁付近になると明度の異なるトランス陶材を多色築盛する必要があり、それらの陶材を選択する基準となることから有用であると考えられる。また、セラミック材料単体のシェードガイドを併用することにより、ステイン法やレイヤリング法の選択基準としても用いることが可能である。

日常の業務の際に、プレスセラミックスの圧入が少量になることが稀にある。しかし、その際には本シェードガイドの原型も一緒に埋没しておくことで、材料の有効活用になる。

fig.2



fig.2 カスタムシェードガイドによる記録写真

fig.3



fig.3 シェードテイキング時の様子

4. おわりに

これから、診療室での使いやすさや色調や材料の違いによるレパートリーを増やし、さまざまな症例に応用できるようにしたいと思う。